

令和5年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	生活の営みに係るものづくりを軸にした放課後の地域ネットワーク
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授 佐藤ゆかり (学内連携) 教授 東原 貴志 教授 五十嵐史帆 教授 藤井和子
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 一般社団法人雁木のまち再生 (担当者職名・氏名) 理事長 関由有子
4 事業の趣旨・目的	放課後の児童を対象とし、生活に関する様々な活動を体験する拠点を提供するとともに、体験活動事例を開発する。具体的には、上越地域の生活文化の発展を見据えた、地域における体験活動の実践事例の開発を行う。さらに、大学生、地域の小学生、ボランティア等の住民が、様々な活動を通して交流することで、地域の活性化につなげ、上越市の地方創生への貢献を目指す。
5 事業活動報告	上越市高田地区仲町の町家を借りあげ、「ヨリ・ミチまちや」と称する生活の営みに係る体験等や造形活動を行う場を提供した。 対象は放課後の児童 21 名であり、家庭科教育、技術科教育、美術科教育等を学ぶ大学院生並びに学部 1 年次生と留学生の参加を得た。 各月の活動は以下の通りであった。 10 月 (4 日:水・13 日:金) 『高田あんぜんマップ (地域安全マップづくり)』 11 月 (1 日:水・10 日:金) 『切り干し大根と干し柿』 12 月 (6 日:水・15 日:金) 『キラキラスノードーム』
6 本事業で得られた成果	学区や学年が異なる児童が生活の営みに係る体験等や造形活動を共に行う場を提供することができた。 家庭科教育、技術科教育、美術科教育等を学ぶ大学院生及び学部 1 年次生と留学生が、それぞれの専門性を活かしつつ、協働して、準備や支援をおこなう場となった。 また、(一社) 雁木のまち再生等、地域の団体との連携を図り、活動を通して、地域との交流を図った。町家の土間での活動は、地域からも見えやすいものであった。児童が活動している場だけでなく、準備や片づけ等の場面において、地域と会話をすることもあった。 将来的には、放課後の児童・生徒 (小学校、中学校、特別支援学校) が生活の営みに係る体験活動等を通して地域と関わり、教員養成大学の学生が、子どもたちと日常的に関わり、子どもの生活に対する関心や理解を深めるための実践的な場所となることを目指したい。そのことにより、地域の生活文化等への理解を深め、地域の活性化につなげていきたい。
7 その他(成果物等の名称)	特になし

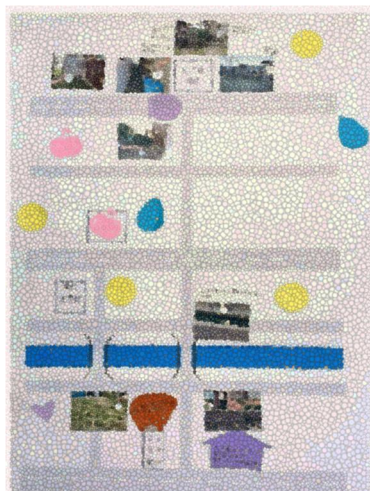
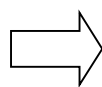
10月（4日：水・13日：金）『高田あんぜんマップ（地域安全マップづくり）』



まちを歩いて危険な場所を見極め、写真を撮る



模造紙に写真を貼り、その場所の説明を書く



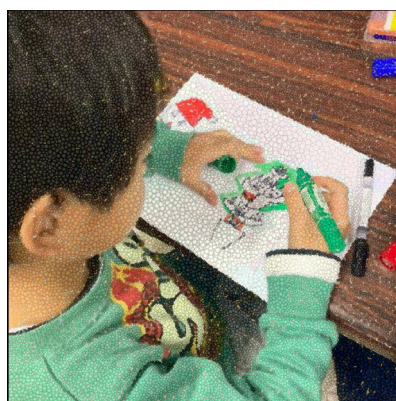
地域安全マップづくりの内容を発表する

11月（1日：水・10日：金）『切り干し大根と干し柿』



切り干し大根と干し柿をつくる

12月（6日：水・15日：金）『キラキラスノードーム』



ドームに入れるための絵を描く



プラ板のできを見守る